



全標協広報

2021 11
NO. 349

○TOKYO2020標識標示を設置	1
○ゾーン30から「ゾーン30プラス」へ	2
○全国事務局長会議をオンラインで開催	5
○広島市安佐南区長から感謝状	5
○土木科高校生に対する体験型出前講座	6
○山形県協会会長就任挨拶	8
○北陸支部事務局長就任挨拶	8
○建設マスター・建設ジュニアマスター	9
○お知らせ	10

ご意見をお寄せ下さい！Eメール:soumu@zenhyokyo.or.jp

「トラフィックサポーター」は、ホームページでもご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかわビル3F (-社)全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ : <http://www.zenhyokyo.or.jp/>

TOKYO2020標識標示を設置

東京オリンピック競技大会及び東京パラリンピック競技大会の開催に伴い「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」（標識令）が改正され、大会関係車両等を対象とする専用通行帯又は優先通行帯の交通規制を行うに当たって用いる「大会関係車両等専用通行帯」の規制標識及び規制標示並びに「大会関係車両等優先通行帯」の規制標識及び規制標示が定められました。



専用標識（有明駅前）

その標識等は本年7月に設置され、7～9月に開催されたオリンピック、パラリンピック期間中の大会関係車両の円滑な走行に寄与しました。

江東区内で設置された標識は7月中に建柱、板付け、被覆を行い、同月18日に被覆を撤去するとともに標示を施工しました。

写真は全標協会員企業が江東区内で設置した標識標示です。



優先標識（「船の科学館」入り口）



専用標示（豊洲市場前）



優先標示（「船の科学館」入り口）

ゾーン30から「ゾーン30プラス」へ

警察庁交通局交通規制課 課長補佐 藤岡 基樹

はじめに

「人」が優先されるべき生活道路においては、高齢者、障害者、子供を含む全ての方が安全で安心して通行できる環境を確保し、1件でも悲惨な交通事故を減少させていかなければなりません。

特に、生活道路の安全対策については、最高速度30キロメートル毎時の区域規制であるゾーン30の整備が進められてきたことに加え、ハンプ等の物理的デバイスが普及段階を迎えており、また、本年からスタートした「第11次交通安全基本計画」においても、「生活道路における安全確保」が重視すべき視点の一つとして掲げられたところであり、今後は、警察、道路管理者、自治体及び地域住民が一体となった一層の取組が求められています。

そこで、この度、警察庁と国土交通省では、従来から警察が推進してきたゾーン30による低速度規制と道路管理者が設置する物理的デバイスとの適切な組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン30プラス」として設定し、生活道路における人優先の安全・安心な通行空間の確保に取り組んでいくこととしました。

本稿では、これまで推進してきたゾーン30による整備効果をはじめ、新たな連携施策である「ゾーン30プラス」の概要等についてご紹介します。

なお、本稿中の意見のわたる部分については、全て私見であることを申し添えます。

1 生活道路における交通事故の発生状況

令和2年中の交通事故発生件数及び負傷者数は、前年に比べてともに減少し、また、過去10年を遡って見ても、右肩下がりで減少しているところです。

一方、車道幅員別に交通事故発生実態を分析すると、5.5m未満の道路における交通事故発生件数の減少割合は、5.5m以上の道路における減少割合に比べて小さく、また、全交通事故件数に占める発生割合も、5.5m未満の道路が全体の約25%を占めており、ほぼ横ばいで推移しています。

また、令和2年中に発生した交通事故死傷者数を幅員別・状態別で分析すると、5.5m未満の道路は、5.5m以上の道路に比べて、歩行中及び自転車乗用

中における交通事故死傷者数が約1.8倍となっています。



図1 交通事故件数と車道幅員5.5m未満道路の交通事故発生率等の推移



図2 幅員別・状態別死傷者数の割合 (令和2年中)



図3 状態別30日以内死者の欧米諸国との比較

さらに、我が国は、歩行中及び自転車乗用中における死者数の割合が、欧米諸国に比べて高く、歩行者や自転車が多く通行する生活道路の安全対策をより一層推進する必要があります。

2 ゾーン30の整備

(1) ゾーン30の整備状況

ゾーン30による生活道路対策は、平成23年からの当初5か年で全国3,000か所の整備を目標に定めて進められましたが、平成28年度末に目標を達成した後、現在では、ゾーン30の整備に加え、物理的デバイス等の設置による対策の充実を推進しているところであり、令和2年度末現在、全国の整備箇所数は4,031か所となっています。



図4 ゾーン30の整備状況

(2) ゾーン30の整備効果

ゾーン30の整備効果については、平成30年度末までに全国で整備した3,649か所において、整備前年度の1年間と整備翌年度の1年間における交通事故発生件数を比較したところ、交通事故発生件数及び対歩行者・自転車事故（内数）はいずれも23.9%、

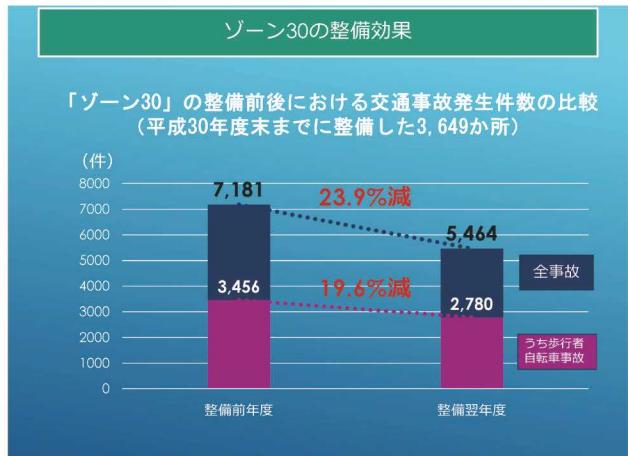


図5 ゾーン30の整備効果

19.6%の減少となっており、過去の調査において、自動車の通過速度の抑制効果も認められているところです。

3 生活道路の交通安全に係る新たな連携施策

「ゾーン30プラス」

(1) 施策の目的

これまで警察では、生活道路における交通安全対策としてゾーン30の整備を推進してきましたが、一方、道路管理者においては、平成28年から、生活道路における通過交通や自動車の走行速度の抑制を図るために、対策を実施しようとする区域を生活道路対策エリアとして定め、ハンプや狭さくといった物理的デバイスの設置等を推進してきたところであり、これらの対策は、可能な限り、双方が連携、調整を図りながら推進してきました。

ハンプや狭さくといった物理的デバイスについては、車両の速度を物理的に低下させることに加え、運転者に対し、その周辺においては、歩行者等の安全確保に一層の注意を払うべきである旨周知する効果も期待されるとともに、設置に際しての地域における検討等の過程が参加・協働型の交通安全対策の推進にも資するものとなります。

これらのこと踏まえ、今後は「生活道路対策エリア」に代わり、ゾーン30による低速度規制と物理的デバイスの適切な組合せにより、交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン30プラス」として設定し、生活道路における人優先の安全・安心な通行空間の整備の更なる推進を図ることとしました。

(2) 主な概要

ア ゾーン30プラスの要件

歩行者等の通行が最優先され、通過交通が可能な限り抑制されるという基本的なコンセプトに対する地域住民の同意が得られ、次のいずれにも該当する区域の中から、警察と道路管理者が協議して設定します。

○最高速度30km/hの区域規制が実施され、又は実施が予定されていること。

○警察と道路管理者、地域の関係者等との間で、ドライバーの法令遵守意識を十分に高めるための物理的デバイスの設置について、適切に検討され、実施され、又は実施が予定されていること。

生活道路の交通安全に係る新たな連携施策「ゾーン30プラス」

- 最高速度30km/hの区域規制と物理的デバイスとの適切な組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン30プラス」として設定
- 道路管理者と警察が緊密に連携し、地域住民等の合意形成を図りながら、生活道路における人優先の安全・安心な通行空間を整備



図6 ゾーン30プラスの概要



図7 全国統一となる法定外表示等

イ 整備計画の策定

警察と道路管理者は、交通事故発生状況や地域の課題、地域の関係者等からの要望等を踏まえて、「ゾーン30プラス」の整備計画を共同で策定します。また、計画の策定までに地域住民等の合意形成が図られるように留意します。

ウ 「ゾーン30プラス」の入口の明確化

「ゾーン30プラス」の入口には、当該区域内が歩行者等の通行が最優先される道路環境であること及び物理的デバイスが設置されていることをドライバーに周知し、車両の速度及び通過交通を抑制するため、原則として、全国統一のシンボルマーク入りの法定外表示及び看板を設置します。

おわりに

生活道路における交通安全対策を効果的なものとしていくためには、対策着手段階からの地域住民等の一貫した関わりが重要であり、警察と道路管理者（自治体）、地域住民等の協働によって、地域に根ざした交通安全の共通問題として解決に取り組んでいかなければなりません。

そして、このような取組を継続していくことで、「生活道路は人が優先」という意識が全ての道路利用者に深く浸透し、安全で安心して通行できる生活道路の実現を目指してまいります。

全国事務局長会議をオンラインで開催

全標協は、9月16日(木)、各支部の事務局長・事務担当者との会議をオンラインで開催しました。

全国事務局長会議は、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため開催できず、令和2年1月30日以来約1年半ぶりの開催となりました。

会議は、事務局長及び事務担当者13人と本部事務局6人の19人が参加し、各支部での講習会・研修会の実施状況、本部への要望事項、次世代の講師養成、技術者の継続教育(CPD)などについての説明や意見交換が行われました。



広島市安佐南区長から感謝状を受ける

—豪雨災害から命を守る活動—

広島安全施設業協同組合

全標協中国支部宮川裕正支部長が理事長を務める広島安全施設業協同組合に対して、広島市より感謝状が授与されました。

「子どもを守ろうプロジェクト」のボランティア活動の一環として全標協広島県協会(大田正尚会長)の協賛によって進めました。この活動は2014年8月20日、77名の死者を生じるなど、甚大な被害を生じた広島豪雨土砂災害の被災地である広島市安佐南区の緑井小学校区内の通学路26か所へ、「土砂災害警戒区域」、「浸水想定区域」と防災キャラクターをデザインした「防災路面標示シート」を設置しました。

全国初の試みでもある同標示シートは、地域住民が土砂災害警戒区域等の災害危険区域を日々の往来の中で自然に認識し、豪雨時など災害が予想される場合、早期避難行動につながるよう作成したものです。

「地域住民の防災意識向上に大きく貢献する」として安佐南区長から同組合に感謝状が贈呈されました。感謝状授与に当たり、植竹良子安佐南区長は「豪雨など災害が想定される時、いかに早く情報を提供し避難してもらうかが重要で、通学路を通る小学生や地域住民が日頃から防災路面標示シートを通じて災害危険区域を再認識していただき、甚大な被害を生じた8・20を風化させることなく、防災意識を高め、早期避難につなげてほしい」と述べました。

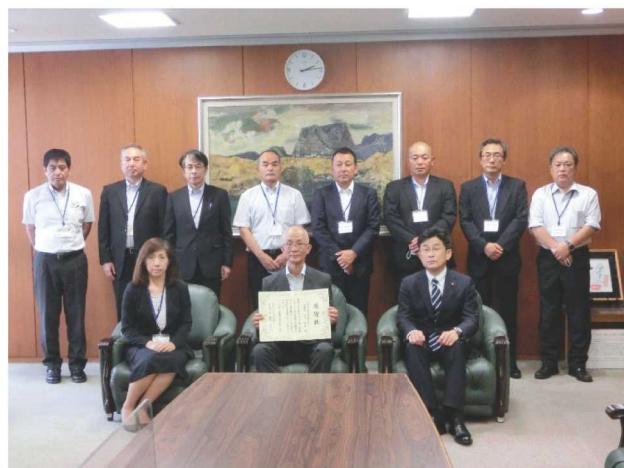
現状、全国最多の4万8千か所余りの「土砂災害警戒区域」を抱える広島県では、砂防ダムの設置など、ハード整備が物理的に追いつかない状況のなか、多くの人が「今まで災害を受けたことがないので大丈夫!」「非難するのが面倒くさい!」「自宅の方が安全!」などと自己中心的な理由づけから豪雨時にも早期避難をためらい、結果、逃げ遅れて被災した人も多くいます。

2014年の八木地区を中心とした豪雨災害の後、同

様の防災標識や標示の設置提案を検討していましたが、しばらくは、このような大災害は起こらないだろうと思っていたためにすぐには活動しませんでした。しかし、4年後の2018年に、より死者数の大きい激甚災害の西日本豪雨災害が発生したために、強く反省して、急いで行動を開始しました。

「掛け替えのない命を守る」ためのすぐにできる活動として、すぐに取り組む必要性を感じ、組合員を中心に、幾多の検討会を開催し、さらに広島県や広島市、行政だけでなく地元関係者の協力を仰ぎ、まず2019年に「防災ハザードマップ標識」9基を被災地域の小学校区に設置。それに続く活動として、2021年には大雨など危険時に早期避難を促す「防災路面標示シート」を同小学校区26か所に設置しました。

安全施設の専門業者として、微力ではありますが、組合員が一致協力し、「国と地域の安全・安心に貢献していくかなければ」と志を持って、少ない予算のなか設置効果等を考慮し、今後の展開を検討しています。



前列左から植竹安佐南区長・宮川理事長・海徳広島市議

土木科高校生に対する体験型出前講座の実施について

全標協富山県協会 事務局長 大上戸文男

1 はじめに

全標協富山県協会である富山県安全施設業協会では、初めての試みとして、将来の建設・土木業界を担う土木科高校生に、

- 交通安全専門工事業の仕事の重要性や現場技術者の仕事内容などを知ってもらい、地域の生活環境の整備をしている重要な仕事として理解を深めてもらう。
- 「自分の住む街を作り・守る」という土木技術者としての「誇りと使命感」を醸成してもらう。ことを目的に、「将来の担い手育成」という社会貢献活動として、土木科がある県内の富山工業高校（6月11日、2時間、2年生、28名）、高岡工芸高校（7月9日、3時間、2年生、28名）、桜井高校（7月14日、4時間、3年生、40名）の3校に出向き、生徒97人に対して、体験型講座を実施しました。

2 講座の概要

(1) 協会業務の紹介



全標協のプロモーションビデオである「道しるべ」を上映し、まずは動画で当業界のイメージを持ってもらいました。

(2) 河合県協会長あいさつ



「自分の住む街を作り、守る」という土木技術者としての「誇りと使命感」をもって、今後、活躍してほしいと激励のあいさつをしました。

(3) 机上講座

机上講習では、標識・路面標示・防護柵等について、質問形式で講義を進行するとともに、実物大の標識シート、ライトによる再帰反射体験、カードレールの実物、供試体のノギスによる測定体験などを取り入れることにより、講義にも関心をもってもらえるよう体験型机上講座に努めました。



実物大シートによる標識体験



ライトによる再帰反射体験



カードレールの実物体験



供試体のノギスによる測定

(4) 実技講座

実技講座では、身近な体験とするため、若年者・高校OBの作業員を配置し、高所作業車の搭乗体験、作業機械の説明、路面標示施工の作図及びライン引き体験を実施しました。

上手に出来たライン引きには拍手が起り、はみ出し、盛り上がりなどが出来た場合には笑いが起こるなど楽しい時間を過ごしました。また、はみ出し等があっても「思い出づくり」ということで補修はしませんでした。



高所作業車の搭乗体験



女子高生によるライン引き体験



作図体験

3 受講生の反響

講座終了後には、「普段出来ない体験、道路標識のことなど多くの事を学び、改めて土木の仕事はすばらしいと感じました。これからも土木の学習にも意欲的に取り組みみたい。」と、感謝の言葉を頂きました。



生徒代表によるお礼

また、生徒へのアンケート結果では、「標識、区画線、ガードレールのことなど初めて知ったことが沢山あり学べて良かった。クイズ形式によることにより深く考えることが出来た。自分たちの知らない所で、命を守る大切な仕事をしていることが分かった。」などと、好回答を得ました。

4 高校への事後アンケート調査結果

「生徒は、土木についての知識がまだ多くなく、講座終了後には、かなりの生徒が興味・関心を持つことができた貴重な体験であった。」、「機械操作、ライン引き、高所作業車の搭乗体験など、授業では教えることが出来ない実際の建設現場技術者の方にご指導を頂けることは大変ありがたい。」、「机上講座であっても、実物を手に取って確かめるなど説明が分かりやすく、生徒たちが講義に引き込まれていた。」などの意見が寄せられ、「今後も継続して実施していただきたい。」という事後アンケート結果をいただきました。



生徒との記念撮影

5 おわりに

高校だけでなく、会員内からも高評価を得て、来年度以降も実施する予定にしていますが、「雨天時の場合の講義日程をどのようにするか」などが今後の課題となっています。

当会員会社にどれだけの生徒が入職してくれるかは不明ですが、少なくとも土木業界の「将来を担う高校生を育成した」という社会貢献活動は達成したものと思っています。



山形県協会長就任に当たって

株式会社石川 代表取締役社長 高橋 雄二

本年2月17日に山田幸人前会長の後を受けて、山形県協会長を仰せつかりました高橋です。山田新東北支部長を支え、県協会の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいりたいと思います。

私どもの会社は、山形県の中部東に位置する山形市にあります。山形盆地の中にあるため盆地特有の夏は暑く冬は寒い、寒暖の激しいところです。記録に残る最高気温40.8度は、熊谷市と多治見市が40.9度を記録するまでの74年間の長きに渡り日本の最高記録を保持していました。そんな暑い土地柄から生まれた「冷たいラーメン」は、山形の夏に欠かせない食べ物となっています。また秋の風物詩となっている「芋煮会」では、家族や友人たちグループが河原のあちらこちらで白い煙をあげ楽しんでいる様子が見受けられます。毎年、6.5mの大鍋を使って作る

約30,000食の芋煮は、日本一の芋煮会フェスティバルとして県内外の多くの人に親しまれています。

さて県内の道路状況ですが、路面標示は消えかかり、標識は退色し維持管理が遅々として進まない状況です。予算が足りないとよく言われますが、令和2年の交通事故の発生件数は、人口比でみると残念ながら東北ワースト1です。

死亡者数こそ東北の平均値ですが、重大事故に遭い重い後遺症が残ればその本人や家族が辛い生活を強いられることになります。1件でも事故は防がなくてはなりません。道路標識・標示の専門業者として各行政機関と連携し安全で快適な交通社会の実現のため活動してまいります。

最後に山形県協会としてますます社会に貢献できるよう取り組んでまいりますので協会の皆様のご支援、ご協力をお願い申しあげます。



支部事務局長就任ご挨拶

全標協北陸支部 山下 利治

本年5月に北陸支部事務局の富山県協会から石川県協会への移管に伴い、支部の事務局長を仰せつかりました（一社）石川県交通安全施設業協会の山下利治と申します。

北陸支部事務局につきましては、平成23年に石川県から富山県に移管され10年余りが経過していたことから、今回、富山県から申し出があり支部長への就任依頼と事務局移管の打診があり、県協会の理事会において協議が行われ承諾することに決議されたものです。個人的には若干の戸惑いと不安を隠しきれない状況がしばらく続きましたが、前任の富山県協会の大上戸事務局長による誠実かつ丁寧な引き継ぎを終えた時点で、「もうひと踏ん張り」頑張ることに心を決め現在に至っています。

このような就任の背景があり、トラフィックサポーターの書面をお借りしての「事務局長就任ご挨拶」についても、いささか二の足を踏んでいましたが、先日、笠原専務理事様からの執筆依頼がありましたので、あらためて5年振りに再就職時を思い出しながら執筆させていただきます。

私は、平成28年3月まで石川県警察において、主に警務部門の会計、厚生、給与、企画等の経験が長く、警察署での勤務は3署10年余りで引っ越しが伴った人事異動は1回のみという先輩・同僚と比較しても幸いな警察人生でした。

協会業務である標識・路面標示等の交通安全施設

に関連する分野での経験については、会計課の契約担当者としての経験と、交通規制課次席としての勤務経験しかなかったことから、再就職先として現在の県協会事務局長の話があった際には、先輩たちのように民間人と良好な人間関係を今後も継続できるか、専門的な話についていけるかなどと一時的に承諾するかいなか悩みましたが、生来楽観的な性格であり、故ペギー葉山さんが歌っていた「♪ケセラセラ…」なるようになるさ」の精神でこれまでの人生を何とかおくってきたことから、退職後の再就職を決めてからは特に違和感なく過ごしてきました。

これまで人並みに様々な趣味・余暇活動にもチャレンジしましたが、毎夜の晩酌以外に何事も長続きしない飽き性の自分にとって、珍しく働き続けていられるのは、協会会长をはじめとして役員・会員の皆様、会員会社社員の皆様のご理解とご協力があつたおかげであり、再就職する際の当初目標であった5年間を勤め上げることについては何とか達成出来ました。

本年から県協会事務局長に加えて北陸支部事務局長の任も与えられることになり、さらに出世…?することとなりましたが、今後は事務量の増加も予測され、寄る歳とは反比例して新たに覚える仕事も加わることになりますが、気持ちだけでも今一度リフレッシュして、全標協北陸支部での業務が円滑に推進できるよう、今後も微力ではありますが支部事務局長として支部内3県の事務局と連携を図りつつ頑張る所存でございますので、何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんがどうぞよろしくお願ひします。

令和3年度優秀施工者国土交通大臣顕彰 青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰

国土交通省では、建設産業の第一線で「ものづくり」に直接従事されている方々に誇りと意欲を持っていただくとともに、これらの方々を広く国民に知っていただき、その社会的地位・評価の向上を図っていくことを目的として、特に優秀な技術・技能を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をされている建設技能者の方々を対象として、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）を実施しています。

また、次世代の建設現場の担い手を確保・育成す

ること、建設マスターに達するまでの技術・技能の向上を図ることを目的として、優秀な技術・技能を持ち、今後さらなる活躍が期待される青年技能者の方々を対象として、青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰（建設ジュニアマスター）を実施しています。

当協会からは建設マスター4名、ジュニアマスター3名、計7名の方々が選ばれました。

新たに建設マスター、ジュニアマスターとなった7名の皆様、おめでとうございます。

◇建設マスター



石川 雅之
道路標識設置工
ライン企画工業(株)
関 東



高橋 弘幸
塗装工
山交ライン(株)
中 部



相原 和之
道路標識設置工
株ナカムラ広報
四 国



桐明 洋介
道路標識設置工
西日本ディックライト(株)
九 州

◇建設ジュニアマスター



曾我 渉
塗装工
群馬ライン企画(株)
関 東



海野 宏司
道路標識設置工
中部ロードテック(株)
中 部



岡林 徹
道路標識設置工
(株)南九州みかど
九 州

**夜間の安全走行を
サポートする3Mの
テクノロジー**

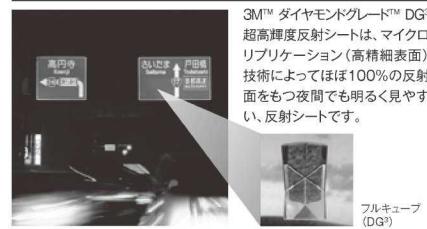
3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社
トランスポーテーション セーフティ事業部
〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
<http://www.mmm.co.jp/ref/>

3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤル 市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間／8:45～17:15 月～金(土・日・祝・年末年始は除く)
3M. ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³
超高輝度反射シートは、マイクロ
リプリケーション(高精細表面)
技術によってほぼ100%の反射
面をもつ夜間でも明るく見やす
い、反射シートです。



お知らせ

入会

○(株)新潟デック
代表取締役 山田 富市
〒950-0951 新潟県新潟市中央区鳥屋野4-18-21
Tel.025-284-7211 Fax.284-7215

代表者変更

○(株)セーフティック
代表取締役 相馬 敏→奈良岡 誠
○三和工営(株)
代表取締役 古田 勝海→富谷 義昭
○ライナー建設(株)
代表取締役 須藤 豊次→鳩貝 享子
○ダイケンテクノ(株)
代表取締役 藤井 稔久→藤井 憲一
○小田鐵網(株)
代表取締役 成田 昭雄→成田 聰
○(株)コスモライン
代表取締役 谷津 吉彦→藤浪 伸夫
○道路資材(株)
代表取締役 川村 純子→竹村 祐一
○(株)寿陽建設
代表取締役 近藤 正明→近藤 幸穂

(北陸支部)

(東北支部)

(関東支部)

(関東支部)

(関東支部)

(中部支部)

(中部支部)

(四国協会)

(九州協会)

組織変更

○キクテック(株)九州事業所→九州営業所 (九州協会)
住所等変更

○(株)小田産業 (東北支部)

〒997-0039 山形県鶴岡市西茅原町21-1

○(株)アトム東京営業所 (関東支部)

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-4

石井ビル4階A号室

○関西支部 (関西支部)

中央谷町ビル→アライズ谷町ビル

○(株)リュウロード (沖縄協会)

沖縄県豊見城市字保栄茂1232-5

退会

○東興業(株) (関東支部)

広報・教育委員会委員
(トラフィックサポーター編集担当)

委員長	松村みち子	石川	盛昭	磯兼	忠
委員	安藤 勝	小畠 営一	笠原 孝志		
	岡根 隆資	菰田 潔	塚田 哲也		
	鎌田 洋一	中村 弘一	長嶋 良		
	辻野 善久	藤岡 基樹	本多 徹		
	南雲 靖秀	前田 年輝	山下 利治		
事務局	村上 寿一				(五十音順)

建退共の掛金が電子申請で納付可能になりました。

建設業界の皆様へ 10月は加入促進強化月間です

建退共に加入しませんか

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

建設工事の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与!

●加入できる事業主 建設業を営む事業主

●対象となる労働者 建設業の現場で働く方

●掛金は 日額320円

建退共は建設業で働く労働者のための退職金制度です。この制度がつくれた退職金制度なので安心かつ確実! 制度説明動画記録中 [建退共] QRコード

特長

- ◎法律に基づき運営される国が作った制度
- ◎建退共に加入し、履行している場合は「経営事項審査」で加点評価
- ◎国からの財政上の支援 (国の助成により掛金の一部が免除)
- ◎掛金は全額非課税 (損金または必要経費に算入できます)
- ◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給
- ◎加入の手続きは簡単 (各都道府県の建退共支部で加入)

建退共 検索 QRコード

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 〒170-8055東京都豊島区東池袋1丁目24番1号
建設業退職金共済事業本部 TEL 03-6731-2866 FAX 03-6731-2895